



ユーгент・フィルハーモニカー
第7回定期演奏会

2013年3月23日(土)

開演 14:00 (開場 13:30)

すみだトリフォニーホール 大ホール

M. ラヴェル | ラ・ヴァルス
Maurice Ravel | La Valse

M. ラヴェル | 組曲《マ・メール・ロワ》
Maurice Ravel | Ma Mère l'Oye

-- 休憩 --

C. サン＝サーンス | 交響曲第3番 ハ短調 Op.78《オルガン付き》
Camille Saint-Saëns | Symphonie n° 3 ut mineur op.78, avec orgue
オルガン：野田 優子 NODA Yuko

※開演中は携帯電話の電源をお切り下さい。

※他のお客様のご迷惑となりますので、演奏中のお席の移動はご遠慮ください。

代表挨拶

本日はユーゲント・フィルハーモニカー第7回定期演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。
致します。

ユーゲントフィル創設から早いもので7年が経ちました。定期演奏会を中心とした音楽活動は規模・内容ともに年々広がりを見せており、現在では選抜オーケストラ出身者のみならず高い意識を持って音楽に取り組もうという意欲的で個性豊かなメンバーが集うオーケストラとなりました。

今年度も沢山のひとと出会い音楽を通して様々な関係を築くことが出来た1年でした。演奏という行為が「演奏会を開くため」という外形だけを残して「人に伝える」という本質的な意味を失ってしまわぬよう、これからも「音楽で何が出来るか」を探求しながら意欲的に活動してまいりたいと思います。

今回はオール・フランス・プログラムの多彩な音楽をお届けします。フランス人も真っ青の「歌って踊れるユーゲント」を目指し今日まで練習を重ねてまいりました。団員一同、心を込めて演奏いたしますので最後までごゆっくりお楽しみいただければと思います。

最後になりましたが、今回ご指導いただいた三河正典先生、各方面でご協力いただきました関係者・スタッフの皆様、そして本日まで来場の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。

ユーゲント・フィルハーモニカー代表 安齋拓志





東京藝術大学作曲科および指揮科に学んだのち、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学、満場一致の首席で卒業。作曲を北村昭、佐藤眞、近藤譲、池野成の各氏に、指揮を小林研一郎、松尾葉子、秋山和慶、河地良智、ドミニク・ルイツの各氏に師事。さらに、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチの元で研鑽を積む。

第4回ブルー・ダニューブ国際オペラ指揮コンクール第4位、審査員特別賞受賞。ブルガス歌劇場(ブルガリア)にてヴェルディ作曲「椿姫」を指揮。

これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、サンクトペテルブルグ交響楽団、ロシア・トムスクフィルハーモニー交響楽団、サンクトペテルブルグ・カルペ・ディエム室内管弦楽団、パザルジク交響楽団(ブルガリア)、浙江交響楽団(中国)、小田原フィルハーモニー交響楽団、湘南弦楽合奏団、ヴォーチェ・ソナーレ(合唱団)など、国内外のオーケストラ、合唱団を指揮する他、新国立劇場、二期会をはじめとするオペラ公演や、サイトウキネンフェスティバル、アルゲリッチ音楽祭などで合唱指揮者、アシスタントコンダクターとしても活動している。

2005年～2007年、日本フィルハーモニー交響楽団指揮研究員。

現在、東京藝術大学および東京音楽大学、同大学院指揮科、声楽科(オペラ)講師を務め、後進の指導にもあたっている。

楽団紹介

Jugend Philharmoniker (ユーゲント・フィルハーモニカー) は、財団法人「日本青年館」の音楽行事(オーケストラ・フェスタ、全国高等学校選抜オーケストラ・ヨーロッパ公演、日本ユング・オーケストラ・ヨーロッパ公演)に参加したメンバーが中心となって2006年3月に創設されたオーケストラである。

選抜オーケストラが母体となっているため、メンバーは様々な大学オケ出身のプレイヤーが揃っている。現在、団員約80名を越えるオケにまで成長し、定期演奏会を中心とした活動の他に、福祉施設や普段生のオーケストラに触れる機会のない農村への訪問演奏、その他、行楽施設の各種イベントやテレビ番組での依頼演奏など幅広い活動を行っている。

音楽的に人間的に成熟した団体作りに励みながら、「アマチュア・オケだからできること(≠プロオケには出来ないこと)」を追求することを理念としている。

M. ラヴェル： ラ・ヴァルス

ラ・ヴァルスは、フランスの作曲家ラヴェルによって1920年頃に書かれた舞踏詩である。1906年2月、ラヴェルは批評家マルノルド宛ての手紙に「ヨハン・シュトラウス2世への礼讃として交響詩風のウインナワルツを書くという構想を披露する」と書いている。この構想は1914年頃に交響詩『ウィーン』という形で日の目を見るはずであったが、第一次大戦の影響により未完に終わってしまう。またこの間、ラヴェル自身も体調を崩し、その後には母の死というショックに見舞われるなどしたため、作曲活動にも滞りが見られた。転機が訪れたのは1917年1月、ロシアのバレエ団・バレエ・リュスの主宰であるディアギレフがラヴェルを訪問し、バレエ曲の作曲をもちかけたことに端を発する。これを受け、ラヴェルは1920年に2台のピアノ版による舞踏詩「ラ・ヴァルス」をディアギレフに聴かせるものの、「舞踏には不向き」と評され、受取を拒否される。ラヴェル自身は「この作品は、私のつもりでは何はともあれ絶対に舞踏のものだ」と述べており、これを機に両者は仲違いすることになってしまった。

尚、この曲に関しラヴェルは次の言葉を残している。

「一渦巻く雲が、切れ目を通して、円舞曲(ヴァルス)を踊る何組かを垣間見させる。雲はしだいに晴れてゆき、旋回する大勢の人でいっぱいな、大広間が見えてくる。舞台は次第に明るくなる。シャンデリアの光は、フォルティッシモで輝き渡る。1855年頃の皇帝の宮廷が舞台である—」

(文責：川田 泰孝)

M. ラヴェル： 組曲《マ・メール・ロワ》

——私はラヴェルが大好きでした。いつも素敵なお話を聞かせてくれたからです。私が膝の上に座ると、「昔むかし…」と話し始めるのでした。

後にこう語るのは、ラヴェルが《マ・メール・ロワ》の4手ピアノ組曲版を捧げた少女ミーである。親友ゴデヴスキの家に滞在していたラヴェルは、彼の子供たちミーとジャンがピアノで連弾できるようにと、この簡素で愛らしい曲集を編んだ。クールなフランス紳士といった印象が強いラヴェルだが、そんな彼が子供たちと無邪気にならめっこなどをしている様子を想像してみるのも楽しい。

第1曲 眠りの森の美女のパヴァヌ

第2曲 おやゆび小僧

「森で道しるべにパンを撒いておいたおやゆび小僧。ところが帰ろうとしてびっくり、パンは鳥がすっかり食べてしまっていたのです」

第3曲 パゴダの女王レドロネット

「女王が着物を脱いでお風呂に入ると、人形たちは胡桃やアーモンドの楽器を弾いて歌い始めます」

第4曲 美女と野獣の対話

「野獣は醜いけれど、心は美しい。野獣は美女に妻になって頼みます。美女はためらいますが、野獣が命をかけるとついに受け入れます。すると美女の前に野獣はなく、美しい王子が姿を現すのでした」

第5曲 妖精の園

※ト書きは楽譜上より引用。

《マ・メール・ロワ》には上述した4手ピアノ組曲版(オリジナル)、オーケストラ組曲版、さらに前奏曲などを加えたバレエ編曲版があるが、本日はオーケストラ組曲版をお届けする。

(文責：中村 伸子)

C. サン＝サーンス： 交響曲第3番 八短調 Op.78《オルガン付き》

「この作品は私の与え得る全てを与えて作った。このような作品は今後二度と書けまい…」
51歳のサン＝サーンスは、自身の三番目となるこの交響曲に対しそう語った。神童としてデビューし、フランス国内外で大作曲家としての名声を確立した円熟期に作られたこの曲には、それだけ作曲者の音楽性と作曲技法が盛り込まれていると言える。

この交響曲の大きな特徴は題名にもあるように、オルガンが使用されている点である。サン＝サーンスの前は、ピアノの魔術師と謳われたリストが「世界一のオルガニスト」と称するほどオルガンに長じていた。オルガンを知りつくした彼ならではの音響効果が随所に聴かれる。

この曲には「循環形式」と呼ばれる、主題が曲中で何度も繰り返し現れる作曲技法が使われている。サン＝サーンスらしい、無駄のない均整のとれた構造となっている。

第1楽章

第1部：Adagio - Allegro moderato 八短調

ゆったりとした短い導入部の後、弦楽器がさざ波のごとく主題を奏し始める。主題自体が細かい音符の羅列である上、徐々に管楽器が重なって音の層が厚くなるため、たたみかけるような曲調となっている。一通り主題が提示されたのち、経過的にグレゴリオ聖歌『怒りの日』の断片が用いられ、第2部につながっていく。

第2部：Poco adagio 変二長調

ここで始めてオルガンが加わる。第1部とはうってかわって穏やかで、たゆたうように曲が進んでいく。オルガンの重厚な響きを軸に、息の長い旋律が紡がれていく。

第2楽章

第1部：Allegro moderato 八短調 - Presto 八長調

主題は第1楽章の第1部から援用されており、曲調は再び険しいものになる。中間部では八長調に転調し、最後は第2部の旋律を用いながら重層的に盛り上がっていく。

第2部：Maestoso - Allegro 八長調

冒頭にオルガンが荘厳に鳴り響き、短調の暗い雰囲気在这里で一掃される。『怒りの日』の再登場、金管楽器のファンファーレ、コラール風の旋律、主題のフガート形式での展開など、明らかに教会音楽を意識しており、またそれがオルガンの存在をより際立たせている。クライマックスでティンパニの独奏を経た後、華やかに全曲が閉じられる。

この交響曲はオルガンに加え、連弾でピアノが使用されているなど楽器編成がやや特殊であるため、その完成度にも関わらず演奏機会に恵まれていない。本日はそういった意味で貴重な機会であり、またその価値を最大限高めるよう演奏する所存である。

(文責：近藤 圭)

活動紹介

2012年

- 3月24日 第6回定期演奏会 (文京シビックホール)
6月2日 (土) 訪問演奏 (よこはま動物園ズーラシア)
6月10日 (日) 訪問演奏 (障害者支援施設きずなの里)
7月14日 (土) 訪問演奏 (デイ・ホーム上北沢)
10月6-8日 第5回農村プロジェクト (長野県上田市武石)
訪問演奏 (老人保健施設いこい・特別養護老人ホームともしび)
11月24日 (土) 第4回室内楽演奏会 (団内) (大泉学園ゆめりあホール)
12月8日 (土) 訪問演奏 クリスマスコンサート (よこはま動物園ズーラシア)
12月14日 (金) 訪問演奏 (イムス三芳総合病院)
12月22日 (土) 第3回しろくまファミリーコンサート
12月22日 (土) 訪問演奏 (特別養護老人ホーム 芦花ホーム)
12月23日 (日)、24日 (月祝) 訪問演奏 クリスマスコンサート (よこはま動物園ズーラシア)

2013年

- 1月12-13日 合宿 (山中湖畔荘 ホテル清溪)
2月2日 (土) 訪問演奏 (デイ・ホーム上北沢)
3月23日 (土) 第7回定期演奏会 (すみだトリフォニーホール)



▲よこはま動物園ズーラシアでの演奏風景

依頼演奏

ユージェント・フィルハーモニーでは学校・老人ホームなどの福祉施設や、その他各種イベントなどでの依頼演奏を受け付けています。詳しくは当団 Web サイトをご覧ください。

Web サイト <http://jugend-phil.com/>

■ 次回演奏会のお知らせ

ユーゲント・フィルハーモニカー 第8回定期演奏会

2014年3月21日（祝・金）夜公演

於 すみだトリフォニーホール 大ホール

曲目未定

後日ご案内をお送りしますので、アンケート用紙にご連絡先をご記入ください

お問い合わせ <http://jugend-phil.com/> (当団 Web サイト)

公式 Twitter アカウント

@jugend_phil : ユーゲント・フィルハーモニカー

facebook

Q ユーゲント



ユーゲント・フィルハーモニカー
音楽家・ミュージシャン/バンド

